

W;REPORT 17

レポート

男女共同参画社会をめざす

2009.11.18 NO.

17



特集

命の営みに流れ続けるものへの信頼が持てた
写真家 落合由利子さん 巻頭インタビュー



「CORNEREVA」1992

卒業して写真スタジオに就職したあとフリーランスになって、依頼された仕事のなかで、せいっぱい撮ってきました。ただ次第に、自分のなかから湧き出てくるテーマで写真を撮りたい、

とつぶつぶもいろいろなことを語っていることに気がついた。もう、あれもこれも見えてくる、撮らずにはいられないくなる。だから三百メートルくらいの竹下通りを歩くのに、「日がかっさやう。何を撮っていたか」というと、「子どもや建物、マネキン人形だったりするんですが、撮りたいものはその光の美しさだったように思います。」

ベルリンの壁崩壊 ●一人の人間として感じたい

ベルリンの壁崩壊

大学では最初の二年間は徒歩旅行部に入り、とにかく歩いた。山にも登りました。その後の二年は休みを使っ

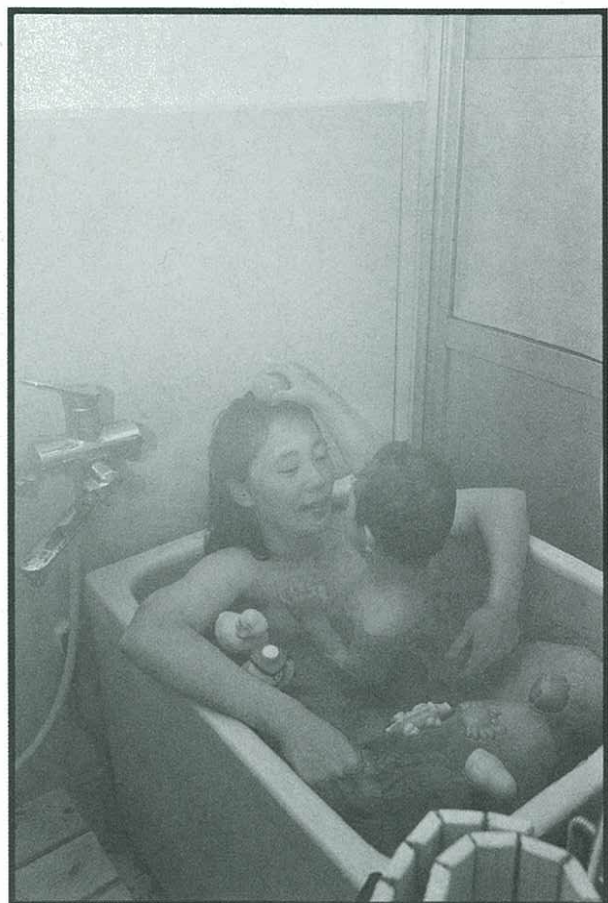
ては写真を撮る旅にでました。バックパックの貧乏旅行でインドや中国にも行きました。

卒業して写真スタジオに就職したあとフリーランスになって、依頼された仕事のなかで、せいっぱい撮ってきました。ただ次第に、自分のなかから湧き出てくるテーマで写真を撮りたい、

とつぶつぶもいろいろなことを語っていることに気がついた。もう、あれもこれも見えてくる、撮らずにはいられないくなる。だから三百メートルくらいの竹下通りを歩くのに、「日がかっさやう。何を撮っていたか」というと、「子どもや建物、マネキン人形だったりするんですが、撮りたいものはその光の美しさだったように思います。」

つけていくと、自分では印をつけなかった写真に、他の人の印がたくさんついている。撮ったのは自分ですから、もう一度その写真を見直してみるとおもしろさが見えてきたりする。

あのころ写真をやっている者同士は、話すより写真を見たほうがわかると思えました。「偉そうなこと言っていないで写真見せて」みたいな感じ。



「働くこと育てること」2001

とつぶつぶもいろいろなことを語っていることに気がついた。もう、あれもこれも見えてくる、撮らずにはいられないくなる。だから三百メートルくらいの竹下通りを歩くのに、「日がかっさやう。何を撮っていたか」というと、「子どもや建物、マネキン人形だったりするんですが、撮りたいものはその光の美しさだったように思います。」

●人間の生活の根源を見たかった

ルーマニアでの暮らし

一九九一年、ルーマニアの山間にある、自給自足の村で農家に泊ってもらい、写真を撮る暮らしをしました。電話もテレビもない、季節ごとの種まき、家畜の世話、収穫、ジャムや保存食をつくる生活です。政治的に翻弄され続け

特集
SPECIAL



命の営みに
流れ続けるものへの
信頼が持てた

PROFILE

落合由利子（おちあいゆりこ）
1963年生。日本大学芸術学部写真学科を卒業後、スタジオを経て独立。動きながら子育てする家族や伊豆に暮らす96歳の女性などさまざまに生きる人の姿を写し続けている。

今年の6月10日から7月4日まで、北区では「男女共同参画週間」として、人々が性別にとらわれず、自分らしい生き方ができる社会づくりを呼びかける催事を行いました。

今回は、この期間中に写真作品展とトークイベントを行った写真家・落合由利子さんに、写真との出会い、さまざまに生きる人々の姿をとらえ続けるわけなどをうかがいました。

●伝わる、みんなが喜ぶことのうれしさ

写真との出会い

現像された「たこ杉」の写真を見た母は言葉を失っていました。ああ、感じたことが伝わったと思いました。お昼の写真は、飛び込んできた友だちが空中30センチに浮いて止まっています。その向こうで先生がおにぎりを持って笑っている。その写真を見てクラスの子どもがみんなすごく喜んでくれました。感じたことが伝わる、みんなが喜んでくれた。写真とはこんなふうに、幸運な出会いをしました。

●あれもこれも見えてくる

撮らずにはいられない

高校時代は写真部に入りました。部員たちで原宿に撮影会に行ったときは、びっくりしましたね。カメラを持って街に出たら、本当に目が三つになったと思いました。例えば街角の「ミ箱ひ

Event Report 平成21年度 男女共同参画週間イベントを行いました!

6/20~7/4

6月20日(土)~7月4日(土)は、北区男女共同参画週間です。男性も女性も、あらゆる場面で個性と能力を発揮できる社会づくりを呼びかける期間です。男女共同参画センターでは、区と協働で男女共同参画を推進する「地域スタッフ」の皆さんと、多彩な事業を行いました。企画運営に関わった皆さんの感想とともに、催事の様子をご紹介します。

6/20土

●男女共同参画センター登録団体交流会



堀口美智子さん (赤羽在住)

昨年、初めて開催した、様々なサークルや地域団体などが大集合するこのイベント。今年は、施設に対する意見の提示や団体紹介のほか、活動発表の一環として、各グループの活動紹介展示をしました。交流会を通じて、他団体の活動を知ることができ、顔の見える、新しい「横のつながり」ができたようです。終了後も登録団体一覧は展示されているので、サークルや活動を探す際、ぜひ活用してもらいたいです。



活動紹介を行う登録団体

6/28日



●CAP**講座「『いや』と言ってもいいんだよー大切な自分を守る体験学習」

子どもに保障されるべき「安心」「自信」「自由」について話す講師

(講師) NPO 法人「青い空」

7/1水

●身近なチャレンジ!~もうひとつの人生を

佐藤幸子さん (滝野川在住)

ふとしたきっかけで知り合った2人のチャレンジングな人生に感銘し、今回の企画を提案しました。フェアトレードに関わる講師が、仕事との出会いなどを語る講座です。起業した長谷川さんと、個人で活動する大芝さん。活動形態は違っても「人との絆」が共通点と感じました。



講座終了後には、施設の明かりを消して、しばし夏の夕べを楽しむキャンドルナイト***も開催。

参加者からは「経験者による話とその努力に感心」「背中を押してもらった気分」との声。2人の人生に自身を重ねたり、遠い国に思いをはせたり。人に歴史ありと感したひと時でした。

*フェアトレード 公正な貿易。経済発展途上国の生産者との取引を公正な条件で行うことにより、その自立や環境保全を支援する新たな国際協力形態。
**CAP [Child Assault Prevention(子どもへの暴力防止)] の略で、子どもがいじめや誘拐、性暴力などから自分で身を守るための教育プログラム。
***キャンドルナイト 日照時間の長い時期などに、一定時間電気を消し、ろうそくの明かりで過ごしながら、地球環境について考えるエコロジー活動。

6/27土

●プラネットシネマ (映画上映) 『フラガール』・『三池一終わらない炭鉱 (やま) の物語』

会場に並んだフェアトレード*ショップを眺めながら、開演を待つ来場者。



6/30火

●私のチャレンジ! ~あなたにも見つかる自分を生かす道



木村美紗子さん (王子在住)

希望の職に就くことが難しい今、女性が結婚や出産、育児の後、介護も抱えて働き続けるのは困難が伴います。講師の話からは、家族の理解を得ながら、あきらめずに希望を持ち、努力を続け、夢を実現した様子を聞くことができました。好きなことを仕事にしたい、企業家として力を発揮したいと考える人に大きな希望を与えられる講座だったと思います。

(講師) 薩摩真理子氏 (企業組合コモンズ理事長) 永田幸江氏 (社会保険労務士) 古屋香織氏 (家庭福祉員)

7/4土

●即興劇で見てみよう! 男のメンツ、女の○○?



眞庭成子さん (桐ヶ丘在住)

男女共同参画週間最終日は、寸劇集団による『男のメンツ、女の○○?』上演で締めくくられました。観客の実体験を団員がその場でストーリーに仕立て、演じます。音の演出も見事でした。参加人数も予想を上回り、多くの人が日頃の思いを発散でき、満足した様子。テレビ番組にも取り上げられ、その反響ぶりに、私たちが取り組む男女共同参画推進活動の大切さを実感しました。



参加者のエピソードを即興で演じる団員

6/20土

●スライドトーク『働くこと 育てること 生きること』



矢吹静子さん (赤羽在住)

6月から7月にかけて行われた写真展示に合わせた、スライドトークイベント。男性数名も含む40名余りを前に、写真との出会いから東欧の旅、複数の家族の一日を撮影したエピソード等が、作品とともに紹介されました。会場には子育て中の女性なども見られ、感じ入るところがあるようでした。



講師の話に聞き入る参加者



6階のギャラリーでされた写真展示 (6/10~7/4)

落合由利子さんの写真展示、トークイベントの様子です!

た土地、東欧を旅する中で、ふっと感じたルーマニアの土の匂いを確かめた。人間の生きる根源の生活にカメラを向けたい、と思ったからです。勇気があるね、すごい決断力だね、と言われますが、ちょっと違います。行かなかったら自分はダメになるような、やむにやまれぬ感じ。それでも出発前には「なんでこんなことを決めてしまったんだろう」「行きたくないけれど行くしかない。結局「行きたい」な

生の中の一日、その人のリズムに入らなです。飛び出した先のルーマニアの農村は、大地の恵みと命の営みに満たされた世界でした。その後、結婚、ふたりの子の出産、夫との別居と、めまぐるしく生活が変化しました。そんな中で、下の子が三歳半のときに、月刊雑誌で「働くこと育てること」の連載がはじまりました。乳幼児を抱えながら働く男女の一日に同行する。たった一日だけれど、確実に一

させてもらう。四年間で三十八人の日常を少しずつ共有させてもらいました。今思うと、この仕事のスタッフには足を向けて眠れないくらい恵まれていたんですね。インタビュの日や撮影後のスタッフとの打ち合わせでは、本題に入る前の三十分くらい、私は子育てで抱えていることを、とにかくしゃべりましたね。でも、それでもしなきゃ仕事できないくらい揺れている時期でした。また、その臨場感があったからこそできた仕事だったと思います。ペ

ら目が離せなくなりました。それは、訪問看護師さんが月曜の朝の廊下を歩いている、その後ろから子どもがついてくる写真で、おかあさんから子どもに、何か「生きる力」というか、エネルギーというか「流れているのが見えたんです。一枚から見るとどの写真からもそれが浮き上がって見えてきた。ああ、四年間、この瞬間を振り続けてきたんだと初めて認識しました。

「働くこと育てること」は、雑誌連載が終ったあとに、写真展があり、単行本として出版することになりました。本にまとめる作業の中で、どの写真を載せるか、順番はどうするかと選び直しながら、もう一度、写真と向き合うことになりました。そのとき、一枚の写真が

「働くこと育てること」は、雑誌連載が終ったあとに、写真展があり、単行本として出版することになりました。本にまとめる作業の中で、どの写真を載せるか、順番はどうするかと選び直しながら、もう一度、写真と向き合うことになりました。そのとき、一枚の写真が

●生きる力、エネルギーが見えた

「働くこと育てること」

今私たちの周りには、否定的なニュースが渦巻いていて、うっかりすると心に不安を呼び込んでしまう。でも、この仕事を通して生きる力はちゃんと継がれてきていることを確信をもって感じる事ができました。

スペースの歩き方

今号からスタートする、男女共同参画センター「スペースゆう」の施設案内のコーナーです。
第1回は、情報コーナー。約4,200の図書資料、ビデオ等があります。ぜひ一度お立ち寄りください。

「情報コーナー」

北とびあ6階から入り、5階へ下りるとまずすぐ右手に見えるのが、スペースゆうの「情報コーナー」です。

男女共同参画に関する図書、行政資料、雑誌、ビデオを所蔵しています。特に行政資料、雑誌、ビデオは、ほかでは見られないものも豊富に配架しています。



平日と土曜は午前9時から午後9時まで、日曜は午前9時から午後5時まで閲覧、貸出、返却サービスを利用できます。

読みやすい単行本から、社会学、女性学の調べ物に使える資料まで揃えていますので、ぜひご利用ください。

閲覧および館外貸出を行っており、ひとり2冊、2週間まで借りることができます。



ひと@スペース

今号からスタートするこのコラムは、男女共同参画センター主催講座の講師など、センターや北区にゆかりの人、自分らしさを大事に生きている人を紹介していきます。

二兎を追う者は、三兎を得る やりたいことをあきらめず、フレキシブルに生きる

光畑由佳さん(モーハウス代表)



モーハウスは、授乳服の企画、製作会社。いつでも素早く、快適に授乳ができるよう工夫された授乳服の製造と、インターネット販売、青山での直営店経営をしています。子どもをあやしながら働ける新しい「子連れ出勤スタイル」を創り出した企業としても、注目されています。

モーハウスの授乳服は、一見して授乳服とはわかりません。授乳期でもおしゃれを楽しみたい、周囲の目が気になる...といった女性たちのニーズと、自身の体験を反映させて、光畑さんをはじめ、



授乳経験のあるスタッフたちがデザインしています。起業という選択について、「子育てしながら、無理なく働ける方法のひとつ」と話す光畑さん。子育ても、仕事も、自分の時間も満喫しようとする姿勢は、「すべてかゼロか」ではない、柔軟な生き方を教えてくれています。

(2009年6月12日開催講座「女性起業家に学ぶチャレンジ精神」第2回 講師)



光畑さんの著書「働くママが日本を救う!」は、スペースゆうでもごらんになれます。

北区で暮らす世界の女性たち

No.5



子どもたちに、
自国の文化や伝統を伝えていきたい

アクタル・シャミム さん
(バングラデシュ人民共和国)

北区に住み始めたきっかけは

アクタル・シャミムさんは、バングラデシュ人民共和国チッタゴン市の出身。日本に来て15年になり、現在、高

家族で地域活動に参加して

下のお子さんが生まれた後、保健所の紹介で、ボランティアグループ「国際パママの集いコアラ」に入会。このグループは、外国人家族の交流サークルで、現在、団地の集会所で、韓国・インドネシア・バングラデシュ・日本などの方々、約35名が参加し、さまざまな活動を行なっています。この活動で特に楽しかったことは、「子どもと一緒に参加した料理づくりやクリスマス会、そしてお台場に遊びにいくこと」と笑顔で答えてくれました。

校2年生と中学1年生の女の子のお母さんです。チッタゴン市は、首都ダッカに次ぐ第2の都市で、にぎわいのある町です。来日のきっかけは、同じ大卒に通っている時に知り合った夫が留学で来日、その後日本で就職したため、結婚したシャミムさんも、日本に住むようになったという事です。来日して以来ずっと北区にお住まいのシャミムさん。北区の印象をたずねたところ、家の近くに学校や病院、駅やお店があり、とても便利で住みやすく、不便を感じたことはないと言っていました。

日本とバングラデシュの教育や生活習慣の違い

バングラデシュでは、さまざまな事情で教育を受けられない子どもが、多いそうです。国は、女の子に手厚い教育を受けさせる方針で、男の子よりも2年長く、無料で教育が受けられるようにしていますが、今でも、子どもが労働力として扱われることがあり、就学率はなかなか上がらないそうです。女性は、結婚するまで家族と一緒に住むのが一般的で、仕事を持ち独立するのは、難しいとのこと。一方で結婚後は、夫の実家でその親など同居することが多く、大家族のなかで子どもの面倒をみてもらえるため、仕事

今では、この会の副会長として活躍しています。この他にも活動の範囲は広く、日本語をボランティアの先生に教えてもらったり、逆に、日本にいるバングラデシュの子どもたち20人ほどに、週1、2回、ベンガル語や英語を教えているそうです。おつれあいも、子どもたちのPTAでつくる「親父の会」に参加して、積極的に地域の方々と交流を深めているそうです。

これからやりたいこと

大学を出てすぐに結婚し、来日したシャミムさん。お子さんが大きくなったこともあり、1年半ほど前から、ショッピングモールのフードコートで仕事を始め、今も毎日楽しく働いているとのこと。仕事と地域の活動をバランスよく実践しているシャミムさん。これからは、活動の場をさらに広げ、日本で生まれ育ったバングラデシュの子どもたちに、自国の文化を伝えていきたいそうです。

バングラデシュ人民共和国
面積 14万4千平方キロメートル
人口 約1億5,000万人(2007年)
首都 ダッカ
民族 バンガル人が大部分を占める
言語 ベンガル語など
宗 教 ヒन्दu教、仏教、キリスト教など
主要産業 縫製産業
主要産物 綿織物
参考 外務省 HP: <http://www.mofa.go.jp/mofai/area/bangladesh/data.htm>

情報コーナー

これから、スペースゆうで行う講座をご紹介します!

男女共同参画センター「スペースゆう」では、一人ひとりの自分らしい生き方を応援するさまざまな事業を行っています。ぜひご参加ください。

〈開催予定行事一覧〉 ※すべて申込先着順。特記のもの以外、会場はすべて男女共同参画センターです。

行事名	日時	内容	講師	対象・定員・費用	申込方法
I 自分らしくありつづけるための介護	2009年11月28日(土) 午後2時～4時	シリーズ「自分らしく生きるシングル生活」の2回目。親の介護や自分の老いについての講師の体験から、老いについて、病むことへの考えを深めます。 ※シリーズは12月に最終回を開催予定	・宮子あずさん (看護師)	・誰でも参加可能 ・40名 ・無料	電話・FAX・Eメールで、参加希望講座名・氏名・住所・電話番号を連絡 ※保育希望者は、講座1週間前までに子どもの氏名・年齢も連絡 (1歳～就学前対象) TEL 03 (3913) 0161 FAX 03 (3913) 0081 E-mail: danjo-c@city.kita.lg.jp
II 僕にもできる! 自慢のメニュー	2009年 11月28日・12月12日(土) 午後1時～4時 ※会場は赤羽文化センター・料理室	料理をきっかけに、自分のこと、家庭のことを積極的にできる男性になりませんか。食卓が華やかく献立と生活のヒント、教えます。	・田口道子さん (料理研究家)	・50代以上の男性 ・30名 ・各回800円 (材料費)	
III 多様な性—マイノリティを理解するために	2009年12月3日(木) 午後6時30分～8時30分	シリーズ「いま家族は、個人は」の5回目。性的マイノリティの人への理解、多様な人々が共生できる社会づくりのためにはどうすればよいか、考えます。	・加藤慶さん (横浜国立大学 非常勤講師)	・誰でも参加可能 ・30名 ・無料	
IV ギャラリー遊 ※絵画、写真等個人や団体の作品を、随時展示しています	11月26日(木)～12月9日(水) 12月11日(金)～25日(金) 2010年1月6日(水)～17日(日)	和紙ちぎり絵画会作品展 パンフレターで創るクリスマスリース 墨の友 水墨画展	申込不要。左記期間中は、開館時にいつでも鑑賞できます。 開館時間 火～土 午前9時～午後9時 日 午前9時～午後5時	※ギャラリー入場は、なるべく閉館30分前までをお願いします	

スペースゆうのお薦め図書

スペースゆうの情報コーナーでは、男女共同参画や自分らしい生き方に関する資料を揃えています。ぜひお立ち寄りください。

「働くこと育てること」

落合由利子著/2001

今号の巻頭インタビューに登場した、落合由利子さんによる写真本。さまざまなに生きる16組の家族を、自身も子どもを抱えて撮影活動していた著者がみつめています。「だれのなかにも物語がまっている」と著者が語るように、働きながら子育てする人々の姿から、自分らしい生き方のヒントが得られる一冊です。



「妹たちへ」

日経WOMAN編/2008

「人生は自分でつくるもの」「年齢神話に惑わされないで」——仕事や結婚・出産に悩む女性へ、さまざまな壁を乗り越えてきた先輩女性からのメッセージ。作家、医師、キャスター等、各々の道で輝く27人が登場する、月刊誌「日経WOMAN」の人気連載をまとめたエッセイ集です。



表・紙・紹・介 GALLERY

制作/水野 尚美
作品名/「王子の狐」



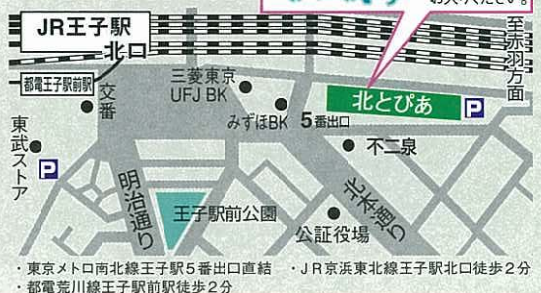
モチーフの形に沿って絵をカットし、遠近感が出るように重ねる「シャドーボックス」。北区に越して間もない作者が、男女共同参画センターのある王子ならではの風景をとらえた写真を使って、個性豊かに仕上げました。新鮮な視点で地域を見つめ、精力的に制作活動を行っています。

男女共同参画センター「スペースゆう」へ来てみませんか?

所在地 〒114-8503 北区王子 1-11-1 北とびあ 5・6階

TEL 03-3913-0161
FAX 03-3913-0081

男女共同参画センター 北とびあ6階
タワーロードからお入りください。



鍵となるものが望まれています。男女共同参画がより豊かな社会づくりの鍵となるものが望まれています。男女共同参画がより豊かな社会づくりの鍵となるものが望まれています。男女共同参画がより豊かな社会づくりの鍵となるものが望まれています。



編集後記

今号では、6月に開催した男女共同参画週間の行事をご紹介します。この週間は、男女共同参画社会基本法の制定を記念し、国が平成13年から設けているものです。6月下旬の1週間、基本法が示す「男女が互いの人権を尊重し、性別に関わりなく、個性と能力を発揮できる社会」を目指し、さまざまなイベントを通してその実現が呼びかけられます。週間を主唱する内閣府では、その趣旨を伝える標語も一般募集しており、今年度は宮崎県の男性による「共同参画 新たな社会のパスワード」という作品が選ばれました。男女共同参画がより豊かな社会づくりの鍵となるものが望まれています。